

これまでの皆さまのご協力に 心から感謝を申し上げます

平成26年からの3年間(毎年4月～6月の期間)にわたって実施された「ふくしまデステイネーションキャンペーン(DC)」。これは地元関係者と県内の各自治体が、JRグループをはじめ全国の旅行会社などと連携して集中的に観光誘客を行うもので、今年が3年目で最後の年となりました。

二本松市ではプレDCとなった平成26年に、「桜色ほんとの空に映えるまち」というキャッチコピーを公募により決定し3年間のスタートをきり、その後「二本松少年隊」が結成されました。

「らしプリン」が選ばれ、道の駅安達で商品化され売り出されました。期間中の本市の誘客取り組みは県内でもトップクラスであったため、「福島県に二本松あり」と印象づけたDC本番の1年となりました。

DC期間最後の年となった今年、総決算フェスタと題して、6月25日と26日の2日にわたり「第1回ざくざく踊り世界選手権」と「第2回ざくざく料理世界選手権」が行われ、3年間に及ぶキャンペーンの幕が閉じられました(結果等の詳細は2～4ページに掲載)。

期間中、DC推進委員会などの関係者の方々をはじめ、イベントなどに足を運んでいただいた多くの市民の皆さんに心から感謝を申し上げます。

ざくざく「料理」世界選手権(6/26)



▲1次予選を勝ち抜いた選手と審査員。最前列左から新野市長、優秀賞の野口さん、最優秀賞の松田さん、優秀賞の西村さん、審査委員の料理家・本田よう一さん



▲「ざくざく」と会津の郷土料理「こづゆ」の食べ比べ。配るのは会津キャンペーンクルーの遠藤さん



ざくざく「踊り」世界選手権(6/25)



▲「ざくざく踊り世界選手権」の出場者と審査員、菊松くんが最後に集合写真



◀踊りを披露してくれたチームに、審査員と会場から大きな拍手

なすびさんのエベレスト登頂報告会で、新野市長から花束贈呈▶



踊り

ざくざく

世界選手権



最優秀賞
渋川婦人会チーム



踊りの「正確性」「独自性」「読解力(表現力)」「エンターテインメント性」「技術力」の5つの審査項目中、4項目で1位を獲得した渋川婦人会の皆さん。かっぽう着にもんぺ姿という服装からは想像もできないような、エネルギーあふれる踊りを披露してくれました。



入賞
サクミクチーム



▲最後に参加者全員でざくざく踊りを披露



優秀賞
スタジオJOCチーム



料理

世界選手権

ざくざく

最優秀賞



「ザク男」 ～ZAKUO～

松田洋平さん(JICA二本松)

最優秀賞に輝いた「ザク男」。ころもの中をお見せできないのが残念ですが、ニンニクの芽、エリンギ、タケノコ、パプリカ、ニンジン、ニンニク、青唐辛子といった具材が、さいの目に切られてたっぷり入っています。具材をみても分かるように、ニンニクや青唐辛子などが入ったこの肉団子は、夏バテ防止にもなり、お酒と一緒に食べると格別です。創作してくださった松田さんからコメントをいただいています。～昨今のヘルシー志向「草食系男子」が増えている中、昔ながらの男気を感じさせる精力あふれる一品。どこでも手に入る食材で作れるので、お手軽簡単です。～



優秀賞

「ざくざく里芋コロッケ」

野口智子さん



ぬめり成分が、脳細胞を活性化させ、老化や認知症も予防する効果があるといわれている里芋を使ったコロッケ。他にニンジン、シイタケ、ゴボウ、レンコン、タケノコ、コンニャク、干しシイタケなどの具材がたっぷり入っています。

優秀賞

「ざくざくあんかけ焼きそば」

西村洋子さん



家庭で作ったざくざく汁をリメイクして作ったあんかけ焼きそば。ざくざくの具材は、ニンジン、ゴボウ、コンニャク、ハンペンなどで、子どもから大人までおいしく召し上がられる一品となりました。



これで終わらせない 二本松がこれから進む

新たなステージとは

今からおよそ5年5カ月前。東日本大震災および福島第一原子力発電所事故が起りました。

それからの福島県内は風評被害に苦しめられ、震災が起る前から人口減少が問題となっていた中、自主避難などにより県外への人口流出が後を絶たず、二本松市も例外ではありませんでした。

そのような中で行われたデスティネーションキャンペーン。二本松市内の各地に点在している優れた観光資源を「二本松の観光」という一つの線にすることで、観光客を呼び込み交流人口を増やし、またこの地域に再び活気を取り戻すため、市および関係団体と頑張ってきました。

その結果、この3年間のキャンペーン期間中、市内外から多くの観光客を呼び込むことができ、市内の各地域でも徐々に活気が戻ってきました。

しかし二本松をさらに元気にしていくのはこれからです。この良い流れをここで終わりにするわけにはいきません。

国が掲げる地方創生の波に乗り、今年作成した「二本松を元気に！新5カ年プラン」のもと、観光だけでなく「農業」「商業」「工業」などの全てにおいて新しい方向性を見いだしながら、新たなステージに挑んでいきます。

農業や商工業、そして 地域おこしの新たな方向 性と「観光振興」の関わり

「観光」という言葉を耳にする
と、その恩恵があるのは「レジャー施設」や「土産物店」、「飲食店」といった商業を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、決してそれだけではありません。

例えば土産物の場合、その原材料を地元で調達すれば、農業や工業といった業種にも利益が生まれます。地元でとれた農産物を直売加工する農業6次産業化なども観光振興施策の一つで、市内へ訪れた観光客に購入してもらい、そのお返しぎゆえにまた訪れてもらうことも、農業や商業の活性化につながるようになります。

また観光客が増えれば、おしゃれなお店や飲食店が増えます。そうなれば、わざわざ市外へ出かけなくても、市民の方が気軽に近くで楽しめるようになります。その結果、私たち市民一人一人が「二本松は住みやすいまち」と思えるようになり、市外への人口流出が抑えられ、地域おこし、さらには新たな市民の増加や雇用の拡大などの好循環が生まれることとなります。

観光まちづくり

全国で人口減少が進行し、地域内消費の減少が今後進んでいくことが予想される中、観光による交流人口の拡大は、前述したように新たな産業を生み出すばかりか、地域活性化にもつながります。

そうした中で、航空網の発達やインターネットの普及により、国内ばかりでなく世界中の観光地で誘客競争が激しさを増している現在、二本松市をさらに元気にしていくためには、確かな戦略や戦術が必要不可欠となります。

そこで必要となるのが「DMO（ディー・エム・オー）」という組織です。この組織は、銀行や民間企業、市民などが出資し設立する新たな法人のことです。

例えば行政が主体となり商品
を売り込む場合、特定のお店のものだけを売り込むことは平等性に欠けてしまい難しくなります。

しかしこの組織では、観光による消費額や雇用者数、税収の推移といった地元の経済効果や、どのような人が何のために訪れたかなどを専門家が徹底的に調査し、常に顧客の需要を把握するため、利益が見込まれるものをどんどん売り込むことが可能となります。

また観光産業だけでなく、市内の農業や工業、そして市民などが一体となって観光振興に取り組めるよう調整し、各分野でそれぞれが活躍できるようにすることで、地域全体が元気になり、市が目指している「観光」と「まちづくり」を統合して進める「観光まちづくり」が実現できることとなります。市では今年、この「DMO」を組織する準備を進めています。

「住んでよし」 「訪れてよし」の二本松

市内には、新たな試みが続ける企業や農業者、市民などがたくさんいます。市では、設立予定の「DMO」を中心に、そういった意欲ある方々と連携しながら地域全体を盛り上げ、市民一人一人が幸せを感じられるような「住んでよし」「訪れてよし」の二本松を、今後も目指していきます。

